



1. 藤原康博《あいだの山》アクリル、パネル 2014 年 個人蔵

Courtesy of Mori Yu Gallery photo: Kenryu Tanaka

パラランドスケープ “風景”をめぐる想像力の現在

Para-Landscape Imagination to Face the Changing Reality

2019 年 1 月 4 日(金)－3 月 24 日(日)

三重県立美術館

MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

5名のアーティストが生み出すそれぞれの“風景”に、 変容する現実と向き合うための想像力のありかを探る。

普段何気なく見ている風景も、見る人の背景にある文化や生活が異なれば印象や読みとる情報も変化します。それは、数々の詩や物語、芸術作品や映像が、風景に対する私たちの感受性や想像力を育て、文化的アイデンティティを形づくってきたためです。いま、SNSの普及やテクノロジーの進展によって、私たちの視覚体験は空間的・時間的な制限を超越し、日常で目にする風景の質も大きく変化しています。その変化は、新しい認識をもたらす一方で、固有の文化・風土に根差した風景への感受性を均質化し、地域の景観や共同体の破壊にもつながりかねない危険性をはらんでもいます。

いま、眼の前にある生の“風景”と切実かつ親密によりそうためには、どのような想像力のはたらきが有効になるのでしょうか。この問いと向き合うための機会として「Para-Landscape」展は企画されました。美術館の5つの空間を舞台に5名のアーティストが作り出す、それぞれの“風景”＝パラランドスケープがそのヒントを与えてくれるでしょう。

* 「Para-」 ... 「～を越えて」あるいは「～とともに」「～にそって」を意味する接頭辞。

出品作家 ※掲載画像は今回の出品作品とは異なる可能性があります。

伊藤 千帆 Chiho Ito 愛知県稲沢市在住

1998 名古屋造形芸術大学造形芸術学部美術学科Ⅱ卒業

ラテックス〔液状の天然ゴム〕と板材や枝などを組み合わせたサイトスペシフィックなインスタレーションによって見る者を圧倒するような展示を実現してきた。時間とともに色や透過性を変化させるセピア色のラテックスと、木の枝や木材の組み合わせは、人の手によって改変された有機物であり、暖かみと懐かしさを帯びる一方、周囲との違和によって置かれた空間の性質を際立たせる。本展では、天井高8メートル超の美術館のエントランスホールを舞台に、天窓から枝が地面へと生え出てくるようなインスタレーションで、見たこともない風景を現出させる。



2. 伊藤千帆《音のない風景》 ラテックス、枝、木材
2016年 photo: Ko Yamada

稲垣 美侑 Miyuki Inagaki 茨城県取手市在住

2015-2016 ナント美術大学（フランス）修士課程半期交換留学

2017 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了、同博士後期課程に在籍中

家屋や空き地のたたずまい、町並みの小さな変化などに眼差しをむけ、見る主体と世界との境界面、そのゆらぎや相互浸透の有り様を、絵画制作を通して思考することで、個人や存在のリアリティを問い直そうとしている。一見軽やかな稲垣の絵画は、建物などを想起させる細部、ときに隣り合い、重なり合いながら居場所をさぐりあうような色面、ふいに目に飛び込んでくる色斑や微かな筆跡などによって、見る



者の感覚に訴えかけ、その記憶を喚起する。また、絵画はしばしば空間へと展開し、鑑賞者の身体へと直接に、存在についての問いを投げかける。本展では、自身のルーツにつながる土地である三重県内で、離島などを訪ね歩いた体験をインスタレーションに展示を構成。

3. 稲垣美侑《Window》油彩、キャンバス

2018年 作家蔵

尾野 訓大 Kunihiro Ono 愛知県岡崎市在住

2005 名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業

2007 名古屋芸術大学大学院美術研究科修了

闇のなかの風景やモチーフを長時間露光で撮影し、光や時間の堆積が生み出す通常の近くとは異なる光景を作品化しつづけている。採石場の山や切花、波の浸食でできた岩場や道路沿いの藪の中など被写体は多岐に渡るが、そのいずれもが、自然と人工の境界の、日常からは微妙に逸脱した時の流れのなかに存



在し、悠久の自然や生命の刹那が人の営みと隣合わせであることの無気味さや不思議さを露わにする。シャッターを押す作家自体も実際には見ていない、複数の時間軸が交錯し合う不可解な光景は、「いま、ここ」で撮影された事実の提示や他者よりの承認を目的とする SNS 上の膨大なイメージとは大きく隔たっている。

4. 尾野訓大《造山輪廻 3》写真 2016年 作家蔵

徳重 道朗 Michiro Tokushige 愛知県小牧市在住

1995 名古屋工業大学工学部材料工学科卒業

1999 名古屋芸術大学大学院絵画研究領域修了

木彫人形や、鉛筆、角材、イス、テーブルなど、さまざまな日用品や既製品を用いた「見立て」によって、虚構の風景や地形を作り出すインスタレーションを展開する。また、現実空間と絵画における奥行きの関係性をはぐらかすような平面作品や、既製品やオブジェのだまし絵的な構成によって、まなざしが持つ様々な働きや作用を意識させる作品にも取り組んでいる。今回は、調査に基づく作品制作に挑戦。三重県南部の南伊勢町から紀北町にかけての沿岸地域における独自の文化や伝承、インフラ整備の歴史などから見る同地の風景の変遷をテーマに、美術館の備品や展示ケースなども利用したインスタレーションを展開する。



5. 徳重道朗 《対岸の風景》 2018年 作家蔵

※本展インスタレーション展示予定作品

藤原 康博 Yasuhiro Fujiwara 三重県伊賀市在住

1992 多摩美術大学美術学部絵画科油絵専攻卒業

2002 チェルシーカレッジオブアートアンドデザイン マスターオブアート ファインアート修了

陰しい峰々や河川といった自然の生み出す彼岸と此岸、あるいは、城、納屋といった構造物の内と外といった、「境界」の存在と、人間の想像力との関係を平面、立体の制作を通して探る。また、ストレージや迷路といった人工的あるいは恣意的な境界を、記憶や連想のアナロジーとして作品に取り入れ、現実の裏側に潜む、どこか不穏なパラレルワールドの光景を展示空間に現出させる。今回の展示は、藤原にとって



何気ない風景を異化するスイッチとも言える納屋のモチーフを主役としたインスタレーションで、仮設される納屋のなかには来場者が実際に足を踏み入れることができる予定。

6. 藤原康博 《Shed》油彩・キャンバス 2017年 作家蔵

photo:Kenryu Tanaka Courtesy of Mori Yu Gallery

展覧会の見どころ

✓ “風景”の概念を拡張し、想像力を刺激する

XR やドローン撮影の普及によって私たちを取り巻く風景体験は急激に多様化し、世界の認識をも変えつつあります。本展覧会は、その変革を前に、生の身体を通して風景と向き合う経験を改めて考え直す機会として企画されました。作品による問いかけは、個人の、日常の、あるいは小さな共同体の、一見とるに足らない風景体験が持つ豊かさや問題点をえぐりだし、来場者の“風景”の概念を拡張し、想像力を刺激します。

✓ 東海圏ゆかりの注目アーティスト 5 名による力のこもった展示

いずれも東海圏あるいは三重県にゆかりのある 5 名の出品アーティストたちは、独自の素材や方法、テーマを追求し、他には類を見ない作品世界を生み出してきました。本展は、彼ら注目のアーティストたちによる、公立の美術館での初めての大規模展示です。各作家は、割り当てられた展示室（あるいはエントランスホール）にそれぞれの“風景”を構築します。力のこもった見ごたえのある展示にご期待ください。

✓ それぞれの“風景”に入り込むことのできる体感的な展示

絵画や写真など平面作品に普段から取り組んでいる作家も含めて、各自サイトスペシフィックな（空間を活かしたその場所限定の）展示を行います。大スケールのインスタレーション（空間展示）の周囲をめぐったり、仮設小屋のなかに入ったり、展示台の迷路のなかを歩いたり、体全体で鑑賞できるダイナミックな展示は、来館者に強い印象を残すでしょう。

✓ 三重県内の風景にも新たな光

稲垣美侑は、鳥羽市の離島をめぐった経験を絵画化し、徳重道朗は伊勢と熊野のあいだの海岸線にある集落に着目し、その独自の文化や歴史、風景の変遷をもとに制作を行います。また、関連イベントでは、美術館周辺の風景をアーティストとめぐるウォーキングツアーを開催するなど、三重県内の風景にも新たな光をあてて、これまでとは異なった見方、見え方を提示します。

会期中のイベント

□アーティスト・トーク

出品アーティストが展示室にて、それぞれの作品についてお話しします。

日時：1月6日（日） 午後2時～

伊藤千帆／稲垣美侑／尾野訓大

2月10日（日） 午後2時～

徳重道朗／藤原康博

要観覧券 申込不要 参加希望の方は当日展示室入口にお集まりください。

□ワークショップ「記憶の山をつむぐ」

いつも見ている山、大切な思い出のなかの山、映画で見た山、物語で読んだ想像上の山、あなたにとって気になる山は何ですか。そのイメージを心に描きながら山の絵を描きます。最後に参加者が描いた山の稜線をつなげて一つのどこにもない風景を作ります。

日時：1月26日（土）午後2～4時頃

講師：藤原康博（本展出品作家）

場所：三重県立美術館 対象：小学生以上

参加無料 要申込

定員20名（応募者多数の場合は抽選）

【申込方法】美術館ウェブサイトから電子申込フォームにアクセスいただき、1月16日（水）までにお申し込みください。1月20日（土）頃までに抽選結果を別途お知らせします。

□ギャラリー・トーク

本展担当学芸員が展示の見どころを解説します。

2月3日（日）、2月23日（土）、3月16日（土）

いずれも午後2時から40分程度

要観覧券 申込不要 参加希望の方は当日展示室入口にお集まりください。

□春分の日の風景さんぽ

津市出身のアーティストと一緒に津のまちを散歩して、新しい風景の見方、見え方を探しにいきます。

日時：3月21日（木・祝）午後1～3時頃

※小雨決行。悪天候の場合の予備日は23日（土）。

講師：片山一葉（津市出身作家）

+尾野訓大（本展出品作家）

場所：三重県立美術館とその周辺

対象：小学校4年生以上（小学生は保護者同伴）

定員12名（応募者多数の場合は抽選）

参加無料 要申込

【申込方法】美術館ウェブサイトから電子申込フォームにアクセスいただき、3月11日（月）までにお申し込みください。3月14日（木）までに抽選結果を別途お知らせします。予備日に参加できない方にも、お申し込みいただけます。

□大人のための美術講座「“風景”のうつりかわり 印象派からインスタグラムまで」

日時：3月10日（日） 午後2時～3時30分

場所：三重県立美術館講堂

講師：貴家映子（三重県立美術館学芸員）

聴講無料 申込不要 定員150名

参加希望の方は当日美術館講堂までお集まりください。

会場は一部の作品を除き
撮影可能です。
三脚・フラッシュの
ご使用はできません。

展覧会概要

会 期：2019 年 1 月 4 日（金）－3 月 24 日（日）

会 場：三重県立美術館 企画展示室およびエントランスホール
（三重県津市大谷町 11）

休館日：月曜日（但し 1 月 14 日、2 月 11 日は開館）、1 月 15 日（火）、2 月 12 日（火）

時 間：午前 9 時 30 分－午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

観覧料：一般 800（600）円 学生 600（400）円 高校生以下無料
（ ）内は前売りおよび 20 名以上の団体割引料金

主 催：三重県立美術館

助 成：公益財団法人花王 芸術・科学財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

同時開催 「特集展示 柳原義達－ブロンズ彫刻と原型」

2018 年 12 月 11 日（火）－2019 年 3 月 24 日（日）

三重県立美術館 柳原記念館 A+B 室

広報用画像について

本プレスリリース掲載の 1-6 の画像を広報用に提供します。ご希望の方は下記注意事項をお読みの上、ご連絡ください。ご希望の図版データをお送りします。

- ・画像のトリミング、文字のせはご遠慮ください。
- ・画像下部記載の作品情報、クレジットを必ず併記してください。
- ・掲載物を一部または紙面データを美術館にご提供ください。
- ・提供したデータについて、広報目的以外のご使用はできません。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合は、コピーガードをかけ、無断転載禁止の旨を明記して下さい。

お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課

貴家映子（さすがえいこ 企画）、高曾由子（こうそゆうこ 広報）

〒514-0007 三重県津市大谷町 11

Tel:059-227-2100 Fax: 059-223-0570 Mail: Sasuge00@pref.mie.jp